



# 学校だより

2 月 号

平成31年1月31日  
横浜市立屏風浦小学校

校長 海老原 眞

## 「次につなぐ」

副校長 田島 良子

2月は、やってきたことを振り返り、来年度をより良くするために改善を具体的に進めていく月です。今年度、初顔合わせをし、一緒に役割を果たしていくことで親しんできた仲間と進めていくので、忙しい中にも活気にあふれています。

さて、教育界も2020年度実施の新学習指導要領の実施に向けて、この2月のような段階に入りました。これまでも、10年に一度、教育の不易と流行を踏まえて学習指導要領は見直されてきましたが、今回ほど、「なぜ、学ぶのか。」「必要な知識は何か。」と、学校教育課程の根幹に関わる課題に直面したことはなかったと思います。

十数年前の教室で、ある言葉の意味を私は子どもたちに問うていました。その時に即答した子どもが手にしていたのは、電子辞書でした。私は、学校に関係ないものを持ってきたこと、辞書を自分の手で引くことの大切さの2点について指導しました。はたして、この指導は今でも通じるのでしょうか。

私が教師になったころに考える10年先は、その予測を信じていることができる時代でした。しかし、今はどうでしょうか。10年先、いえ5年先でさえ自分の予測に自信がもてません。こんな時代においてもヒントになるのは、やはり、目の前にいる子どもたちの声、今ある姿そのものです。

「こんなのやりたくないよ。」「どうして、これをやらなくちゃいけないの。」と、ちょっと大人を困らせることもあります。それに対して「とにかく、やりなさい。やらないと、大人になってから困るよ。」では、あまりにも誠実さに欠けた答えでしょう。素朴で本質をついた問いだからこそ、一緒になって大人も考え、一緒に試行錯誤をしながら、この子の中にある何かを引き出していきたいものです。

私たちに与えられたキーワードは、「学校・家庭・地域社会に開かれた教育課程の編成をすること」「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改革」「生きる力を育むためには、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力をバランスよく育てること」などです。私達自身が受けてきた授業や学校のイメージをそのまま踏襲するだけでは、このキーワードは生かせないでしょう。

電子辞書を手にした子どもが時代を先取っていたように、授業はもちろんのこと、家庭での学習の仕方等も、その意味や価値をこのキーワードに照らし合わせて、前例のないことにも、古き良きことにも、これからチャレンジしていきますので、どうぞ、保護者の皆様、地域の皆様、お知恵を拝借させてください。

また、今月もこれまでと同様に、屏風浦小学校をよろしくお願いいたします。